

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム かえで		
所在地	岩国市南岩国町4-59-5-1		
電話番号	0827-34-2887	事業所番号	3570801187
法人名	有限会社 岩国メディカルサポート		

訪問調査日	平成 20 年 3 月 5 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 18 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	22 人	常勤	13 人 非常勤 9 人 (常勤換算 18 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋		造り	
	2	階建ての	2	~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	48,000 円	敷金	無	円
保証金	有	150,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	450 円	
	夕食	550 円	おやつ		円
その他の費用	月額	12,000 円			
	内訳	光熱水費			

(4) 利用者の概要 (3月5日現在)

利用者数	18 名		男性	3 名	女性	15 名
	要介護 1	9	要介護 4	3		
	要介護 2	4	要介護 5			
	要介護 3	2	要支援 2			
年齢	平均	85.6 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 藤本循環器科・内科、横田胃腸外科肛門科、たかた整形外科、二宮医院 歯科 藤生歯科センター
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

余裕を持ってケアが出来るよう22名の職員を確保され、利用者の一人ひとりのペースを大切に、希望に添った支援をしています。運営者(医師)の病院がすぐ近くにあり、週1回以上の往診や、看護師による利用者の状態の確認がされており、利用者や家族の安心に繋がっています。

(特徴的な取組等)

食事を楽しみにしておられる利用者のために、食にこだわり、美味しいご飯にしようと、玄米を買い求め、毎日つくたてのお米を炊き、副食の食材も国産を利用して調理されています。利用者と一緒に味噌作りをしたり、おせち料理やクリスマスの料理も利用者と一緒に手づくりし、家族と一緒に食事をして、楽しいときを過ごされています。重度化や終末期に向けた方針を示され、医師、看護師、職員、家族と話し合われて共有されています。これまで2名の方を看取られています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果について、改善点など会議で話し合わせ、評価チェック表を増やしたり、記録の見直しをされるなど、改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

ユニット毎のミーティングや全体会議で評価の意義について話され、自己評価について全職員からの意見を聞いて、管理者と計画作成者でまとめられています。

(運営推進会議の取組状況)

地域住民代表者4名、地域包括支援センター職員、消防署分隊長、警察署2名、利用者2名、家族2名、管理者、職員の参加で2ヶ月に1回開催しておられます。ホームの状況報告や、夏祭りやボランティアについて意見交換をされています。会議の後、家族会を開催しておられます。

(家族との連携状況)

毎月ホーム便りを送り、利用者の様子を伝えるほか、家族の訪問時や電話等で、暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について報告されています。運営推進会議やクリスマス会行事後等に家族会を開催しておられ、意見が出やすいようお茶や手作りのお菓子を出し、和やかなムードで話せるように取り組まれています。

(地域との連携状況)

年数回ある自治会の会議に管理者が出席したり、溝掃除や地区の祭りに利用者が参加しておられます。ホームで行なう夏祭りには、約200名の地域の人や家族等の参加があり、地域のボランティアの協力を得て、盆踊りをしたり、出店を出したりして、利用者は浴衣やハッピを着て参加し、地域の人とのふれあいを楽しまれています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>運営者を中心に、職員で話し合い、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげ、地域住民との交流を図りながら利用者の支援に取り組んでいる。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、出勤したら目を通すことを職員に徹底し、朝のミーティング時に唱和して、理念を共有したうえで、日々のケアに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>年数回ある自治会の会議に管理者が出席したり、溝掃除や地区の祭りに利用者が参加している。ホームで行なう夏祭りには、約200名の地域の人や家族等の参加があり、地域のボランティアの協力を得て、盆踊りをしたり、出店を出したりして、利用者は浴衣やハッピを着て参加し、地域の人と交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の評価について改善点など会議で話し合い、確認チェック表を増やして、記録の見直しをするなど改善に取り組んでいる。自己評価は全員の意見を聞き、まとめている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>地域住民代表者4名、地域包括支援センター職員、消防署分隊長、警察署2名、利用者2名、家族2名、管理者、職員の参加で2ヶ月に1回行なっている。ホームの状況報告や、夏祭りやボランティアについて意見交換をしている。会議の後、家族会を開催している。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>行政が開催する研修会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便りを送り、利用者の様子を伝えるほか、家族の訪問時や、運営推進会議後の家族会、電話等で暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議後、クリスマス会行事後等に家族会を開催し、家族の意見、要望を聞いている。意見が出しやすいようお茶や手づくりのお菓子を出し、和やかなムードで話せる場を設けている。相談、苦情を受け付ける窓口及び職員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。第三者委員は選任していない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤13名、非常勤9名の職員を確保し、利用者や家族の状況の変化や、外出などの要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みや緊急時には職員の勤務交代で調整し、利用者や家族が安心できるように余裕を持った職員数である。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間での職員の異動を定期的に行い、両ユニットの利用者となじみの関係ができるようにしている。離職者がある場合は、離職1ヶ月前に新任を採用し、重複勤務で、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として外部研修の機会を提供している。新任が夜勤を始める場合は、数回体験できるようにしている。認知症について内部研修を行なうなど職員を育てる取り組みをしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟し、研修会に参加している。岩国地域グループホームの会において、現場の職員が各々のグループホーム見学、意見交換会を数ヶ月に1回行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居希望者には施設の見学や、1～2回食事を一緒にして、職員や利用者との交流を図り、馴染めるように配慮している。利用開始直後はできるだけ家族に来てもらうなど取り組んでいる。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日々、一緒に生活する中で、利用者から野菜の切り方や味付け、味噌作りを教わったり、家事や食事、散歩や買い物など、一緒に楽しみながら支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中から、利用者の言葉を聞き取り、希望や意向の把握につとめ、ケース記録に残している。困難な場合は家族から生活歴や思いを聞いて、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のミーティングで利用者に関わる課題を話している。ケース記録に記載された利用者の気持ちや要望、面会時等に聞き取った家族の意向などを参考にし、職員の意見も反映して介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>定期的な見直しのほか、状態に変化があれば毎月のミーティングや朝礼時で気づきを話し合い、必要に応じて新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診や買い物への付き添いの支援や、利用者の自宅へ衣類の入れ替えにも職員が付き添い支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。運営者である医師の往診や、歯科医の往診もあり、日々の変化にも医師と相談しながら対応している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針を示し、医師、看護師、職員、家族と話し合い共有している。これまでに2名の利用者の看取りをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関する勉強会を開き、自尊心を傷つけない言葉かけや対応をし、記録の取り扱いにも気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、希望に添って支援している。夜中、おにぎりを食べることで安心して眠れる利用者には、おにぎりを用意するなど、その日のその人らしい暮らしを支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	美味しいご飯にするため、玄米を買い求め、毎日、つき立てのお米を炊き、副食の食材も国産のものを用意し、三食共ホームで調理している。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。おせち料理やクリスマスの料理を利用者と一緒に作り、家族と共に楽しい時を過ごしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日可能で、時間も利用者の希望に添って、その都度対応し、入浴を楽しめるよう支援している。2人で入浴し、楽しんでいる利用者には、時間がかかってもゆっくり入れるよう見守り支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	高校の美術部の生徒から絵を習ったり、歌、体操、レクリエーションなどの楽しみごとや、調理、盛り付け、テーブルのセッティング、配膳、片付け、洗濯物干し・たたみなど活躍できる場面を作り、気晴らしや、生き生きとした生活が送れるよう支援している。個人で週刊誌や新聞を購読している利用者もある。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、理美容院の利用、ドライブなど、戸外に出かけられるよう支援している。誕生日はみんなで外食を楽しんだり、日帰りで海を見に行ったりしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	権利擁護や身体拘束のマニュアルを作成し、勉強会を行い、全職員で理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、事故・ヒヤリはっと報告書に記載し、自己防止策について会議で話し合っている。転倒など起こりうる事故について、個別に予防策を検討し、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回AEDの研修と訓練を実施している。普通救命講習や上級救命講習を受講している職員もあり、AEDの使用方法は全職員が把握している。緊急対応マニュアルを作成し、勉強会をしている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人に参加を呼びかけ、利用者、職員全員で消防署の協力を得て避難訓練を年2回実施している。避難にかかる時間を計ったり、テントを張り、無害な煙を焚いて、利用者を煙の中から避難誘導する訓練を行なっている。防寒具・非常食・飲料水など、非常用備品の準備をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	毎週火曜日に、薬剤師が薬を持参し、処方箋(目的、用法、用量、副作用、形状の写真)により職員に説明しており、職員も理解している。薬はその都度手渡しし、服用を確認している。週1回来訪する医師や看護師に状態の変化を伝え、助言を受けている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの支援をしている。口腔ケア、義歯の清掃、消毒については、ケアプラン生活チェック表に記録し、保管の支援もしている。歯ブラシ、コップは日光消毒もしている。歯科医の往診もある。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。栄養士による栄養バランスの取れた献立を立てている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、会議で話し合い、全職員が共通理解し、実行している。消毒チェック表を作成し、確認して衛生に気をつけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングには、テレビ、季節の花が飾られたテーブル、ソファなどがあり、天窓からの自然の空気の入替えもでき、室内の明るさや音に配慮されている。キッチンからのおかずのできる匂いや、野菜を切る音が聞こえ、生活観が感じられる。畳の間には炬燵もあり、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、机、仏壇、化粧台など、利用者のなじみの物を持ち込んでいる。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム かえで
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5-1号
電話番号	0827-34-2887
開設年月日	平成18年3月16日

【実施ユニットの概要】 (2月15日現在)

ユニットの名称	こすもす			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 3名	女性 4名	
	要介護1	9名	要介護4	2名
	要介護2	4名	要介護5	
	要介護3		要支援2	
年齢構成	平均 85.7歳	最低 81歳	最高 94歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	家族会や職員会議において議題として提案し、ご意見をいただいて、また話し合いをして現状を調べてまとめました。
評価確定日	平成20年2月15日

【サービスの特徴】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。

(考え方)

「認知症」に対する考え方は、「個性」と同じと考えています。又は、家族の思い(愛)が試される機会。当人には試練又はご褒美と考えています。「一期一会」が何度もあるなんて、羨ましいと思いませんか？「認知症」の方は、「不安感・孤独感・疎外感」の中で常に葛藤しており、「安心ができる環境(人・物・場所)」と、当人を必要(役割)とする」だけで、穏やかでその人らしい生活が送れると考えています。

(接し方)

まずは、その人の「性格・習慣・生活歴・趣味」を良く知る。「お客様」扱いはせず、「家族」として接します。家事もして頂きますし、感情(喜怒哀楽)も出して接しています。家族の一員としてもちろんケンカ(口論)もします(根のあるケンカはしません)。ケンカが終わると普通に話もしますし、大笑いもします。人間ですから、笑いだけで和やかに生活するのは不自然ですし、「喜怒哀楽」の感情を出す事で、脳を刺激できるように工夫もしています。

(体制)

管理者1名(介護支援専門員で専従、計画作成担当者・介護従事者も兼務)、計画作成担当者1名(介護従事者も兼務)、介護従事者17名(内、常勤11名〔内2名は兼務〕・非常勤6名)、看護職員2名(介護従事者と兼務1名、提携医院より派遣1名)

ほぼ月1回の職員会議(内部研修も含み)、積極的な外部研修参加を実施。当施設の他部署の専門職員(看護師・理学療法士・介護支援専門員等)との情報交換を密にし、様々な専門的見地からの意見も取り入れています。

(交流)

- ・ご家族の方々とは、面会時やお電話お手紙等により情報交換に努めています。
- ・地域の方々とは、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施や自治会活動(現在は職員・毎月様々なボランティアの方々への訪問(お話し会・音楽療法・作業療法等)により、

(特徴)

- ・“食”にこだわり、国産の物を提供しています。
- ・社長(医師)宅から徒歩3分圏内にある為、急変時の対応に迅速に対応できます。
- ・本人、ご家族が“看取り”をご希望されれば、“看取り”も行ないます。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に会議を全職員で行っており、昨年の評価を踏まえた上で、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいます。また、具体的には、話し合いで決まった重要事項が抜けないようにチェック表を増やしてみたり、記録の見直しをしてより良い介護を目指しています。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご入居者様とその家族他、地域住民、地域包括センターや行政の職員の方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容に付いての件で、ご提案頂くこともありますが、速やかに実現致しております。また、外部評価の項目内容について、運営推進会議において議題として挙げ、広く意見を頂いております。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議にご参画いただいております。また、行政が開催している研修等に積極的に参加し、その都度職員対象の報告会を開き、援助の向上に取り組んでいます。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見人についての勉強会を全職員対象に行っており、皆、概要を理解しています。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法についてのマニュアルを作成し、グループホーム会議などで、虐待についての知識を深めています。また、虐待を発見した際はマニュアルに従い適切に対応するよう徹底しています。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書に沿って解りやすくご利用者とその家族他に説明を行っており、パンフレットや実費料金表などを提示して分かりやすく説明しています。解約時にも理解、納得を図るよう心がけています。また、契約の解除の場合には、退居後に入所となる施設との橋渡しなど、様々な面で協力と説明をしています。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者様の表情をみて職員から積極的にその人の思い、不満を聞き出すよう心がけています。また、ご入居者様は、そのご家族他の方に自由に電話を掛けることが出来る環境にあり、自由に外部とのコミュニケーションを取られています。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご入居者様の健康状態に異変があった際や受診を行なった際は、随時その家族他に連絡をしています。職員の異動や金銭管理についても、面会に来られた際に説明させて頂いています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		?
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご入居者様とのコミュニケーションを図り、要望を聞いた上でご家族に相談するように務め、ご入居者様の気持ちや、要望を最大限活かせるよう、作成しています。また、ケアプランを介護記録のファイルにはせており職員はいつもの確認ができるようにしています。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた介護計画の見直しはもちろんのことですが、体調の変化等それまでの計画では対応が出来ない場合に、ご入居者様やその家族他と話し合い新たな計画を作成しています。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子をケアプランに沿って個別に介護記録用紙に記録しており、記録を基にケアプランの見直しを行なっている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしている。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしています。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方の協力を積極的に呼びかけ毎月何組かのボランティアの方にお越しいただいています。内容としては、お話し会・手遊び・中学生による琴や絵画・お菓子作り等があります。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	専門医師による講演会を毎月行い、地域の方を招待しており、毎回多数の方に参加いただいています。一般の方の見学や研修等も積極的に受け入れに努めています。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご入居者様やそのご家族のご意向を伺い、他のサービス利用に向けた他サービスへの見学への付き添いや連絡等をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報保護法・秘密保持・プライバシーについての勉強会を開いており、一人ひとりの自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っています。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促しています。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食器洗いや、洗濯それぞれ出来ることをやっていただくよう支援している。自室は毎日利用者本人に清掃してもらい、できないご入居者様は職員が行う。居室内のタンス等には、本人の希望があれば、「タオル」などのシールを貼り、分かりやすくしています。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>無理強いせず、一人ひとりの生活パターンを大切に、希望に添って支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>2ヶ月に1回程度訪問の理容を支援している。夏祭りのときには希望者は浴衣を着、化粧をしたり、外出の際のおしゃれ等支援しています。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事が楽しみなご入所者様も多く、食事の準備を手伝ってくれる方が多い。食事時の雰囲気も良く、好き嫌いにも対応し、体調が優れないとき等希望があればお粥など、臨機応変に対応している。また、ご入居者様、職員と一緒に準備、食事、片付けをして、さらに、コミュニケーションを円滑に図り、楽しみを増やすよう支援しています。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>現在、喫煙する利用者はいないため、他者への迷惑や、防火等考え、敷地内は禁煙になっている。飲酒は希望があれば健康に支障をきたさない程度に楽しめるよう支援しています。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>自尊心を傷つけることなく、定期的にさりげない声かけやトイレ誘導をしています。現在、常時オムツをしている利用者はいない。全てのトイレにウォシュレット・手すりがついており、車椅子用トイレには背もたれ、足置きを備えています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		夏に夏祭り・冬にクリスマス会と、年2回参加を呼びかけ、毎回多数のご家族に参加して頂いている。ご家族が参加することで、ご入居者様も大変喜ばれ、良い思い出となっているので、今後春の花見、秋の運動会と四季で参加できるよう検討していきたいと思っています。
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		権利擁護や身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会を開いており、職員全員理解しています。
75	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		出入り口は鍵をかけず自由に生活していただけるようにしている。職員が気づかず外出するケースも考えられるため、そのため安全対策で対人センサーを設置しています。また、全館セキュリティシステムで無人部分の適切な見守りを行っています。
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		職員必ず1名はホール対応にて、見守りを行っており、入居者の方の所在確認しています。また夜間に関しては夜勤者は1時間毎巡回を行っており、記録に残しています。
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		包丁や洗剤等ご入居者様が自由に使用していただけるようにしているが、使用しない時間帯には手の届かないところに保管し、要望があった際、使用していただくよう管理している。薬に関しては、ステーション内の棚に鍵をかけ保管しています。また、ご入居者様の私物(刃物・裁縫道具など)に関しては、各入居者担当の職員が所有物のチェック表を作成しており、状況に合わせて保管させてもらっています。
78	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		事故防止についての、マニュアルを作成し、事故防止策をについての会議を開き、徹底している。また、事故、ヒヤリはつがあった際には、書類を作成し、会議にて予防策を検討し、対策を練っています。
79	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		AED(自動体外式除細動器)のインストラクターをお招きし全職員講習に参加し使用方法を把握している。また、緊急時態対応マニュアルを作成しており、勉強会を行なっています。
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、会議を2回行い、職員同士で見合わせ再発防止に努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の入り口にカギはなく、門もなく開けられている。玄関周りは花で飾られており、季節感があふれている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ご入居者様とのカレンダー作りで季節感をだしている。ホールの中には台所があり、まな板の音や料理の匂いで五感を刺激する。そうすることでコミュニケーションの活性化にもつながる。また馴染みの食器を使用しているご入居者様もあり、楽しく食事をする工夫もしている。花を飾り季節感を出すよう努めています。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TV、テーブル、ソファがホールにあり、利用者様がTVを観たり、本を読んだり、談笑したりと気のあったご入居者同士で思い思いに過ごしている。また、玄関ホールやホール内の小上がりにソファやコタツが設置されており、独りになれる落ち着いた居場所づくりを工夫しています。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者様が居心地よく過ごして頂くために、本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを使用している。例としては、タンス、化粧台や仏壇などがあります。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、窓の開け閉めをし、空気を入れ換える。居室に冷暖房、換気扇があり利用者様の要望に応じて調整している。また、各ホールに温度計が設置されており、外気との気温の差を観ながら室内の温度を調節している。暖房を使用する際には加湿器を設置し乾燥を防ぐよう努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	シンク、調理台などはご入居者様の高さに合わせ、使用しやすいよう配慮している。また、洗面台も、車椅子を使用している御入居者様の高さに合わせ工夫しており、自立した生活に繋げている。ホール、トイレ、浴槽内に手すりを設置しており、安全面にも気を付けています。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの扉にトイレと記載した紙が貼ってあり、混乱や失敗を防いでいます。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に畑、花壇、ベンチがあるため、外周リの散歩時などは楽しみながら活動している。また、かえで内にエレベーターが設置されているため、車椅子のご入居者様でも要望に応じて気軽に外出する事ができます。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム かえで
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5-1号
電話番号	0827-34-2887
開設年月日	平成18年3月16日

【サービスの特徴】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。

【実施ユニットの概要】 (2月15日現在)

ユニットの名称	なのはな			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 1名	女性 8名	
	要介護1	6名	要介護4	1名
	要介護2		要介護5	
	要介護3	2名	要支援2	
年齢構成	平均 85.6歳	最低 78歳	最高 92歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	家族会や職員会議において議題として提案し、ご意見をいただいて、また話し合いをして現状を調べてまとめました。
評価確定日	平成20年2月15日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
	<p>「人がいて自分がある その人のために出来ることを」をモットーに家族、地域の方との交流を作りながら、ご入居者様らしさを尊重しています。例えば、ご入居者様から、買い物や、散歩等の要望があった際は、職員が付き添い、要望に応えるよう努めています。また、自治会でのお祭りや溝掃除など、地域行事にも、積極的に参加しており、春には自治会の御厚意により特別に当グループホームの敷地内に山車を入れて頂き、より近くで祭りを見学できました。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
	<p>マニュアルを作成し、出勤した際、理念に目を通すことの徹底。または、申し送りを含めた朝のミーティングの際に、全員で唱和し、理念を頭に入れ、勤務につく。勤務中は各職員がご入居者様の立場に立って物事考え、意見交換や確認をしている。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
	<p>ステーション内に掲示しており、出勤した際に、目を通すことの徹底。また、朝礼・GH会議での説明を行っています。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
	<p>毎朝(月～土)の朝礼時において、出勤している職員とのミーティングをかかさず行っています。どうすればご入居者様とご家族様他に満足いただけるのか、どうすれば少しでも状態が良くなるのかといったことから、職員の要望を聞き、よりよい職場とするための改善点の打ち合わせまで幅広く話し合いをしています。またサービス向上のための会議や講習にも運営者や管理者も参加して職員と話し合いの機会を持っています。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
	<p>2ヶ月に1回ペースでの運営推進会議会議を行っており、その都度説明や質疑応答をして、少しでもご理解いただけるよう、努力しています。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
	<p>散歩時等の挨拶の徹底をしています。また、挨拶だけでなく世間話等こちらから積極的に関わるよう努めています。最近では毎週、当グループホームに移動のパン屋に来ていただいております。近隣の方もパンを買いに気軽に立ち寄り行かれます。その際にご入居者様や職員、近隣の方との交流も図れています。</p>		
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
	<p>溝掃除や地区の祭りなど積極的に参加するとともに、夏祭りや消防訓練などの参加を呼びかけています。また、当グループホームでの運営推進会議には、民生委員の方や婦人会の方に毎回出席して頂いており、今以上に地域との交流が図れるよう検討しているところです。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		
	<p>専門医師による職員、ご入居者様、地域一般の高齢者への月1回の講演会の実施しています。また、年に2回消防訓練を行い、地域の高齢者へ参加を呼びかけています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に会議を全職員で行っており、昨年の評価を踏まえた上で、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいます。また、具体的には、話し合いで決まった重要事項が抜けないようにチェック表を増やしてみたり、記録の見直しをしてより良い介護を目指しています。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご入居者様とその家族他、地域住民、地域包括センターや行政の職員の方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容に付いての件で、ご提案頂くこともありますが、速やかに実現致しております。また、外部評価の項目内容について、運営推進会議において議題として挙げ、広く意見を頂いております。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議にご参画いただいております。また、行政が開催している研修等に積極的に参加し、その都度職員対象の報告会を開き、援助の向上に取り組んでいます。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見人についての勉強会を全職員対象に行っており、皆、概要を理解しています。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法についてのマニュアルを作成し、グループホーム会議などで、虐待についての知識を深めています。また、虐待を発見した際はマニュアルに従い適切に対応するよう徹底しています。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書に沿って解りやすくご利用者とその家族他に説明を行っており、パンフレットや実費料金表などを提示して分かりやすく説明しています。解約時にも理解、納得を図るよう心がけています。また、契約の解除の場合には、退居後に入所となる施設との橋渡しなど、様々な面で協力と説明をしています。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者様の表情をみて職員から積極的にその人の思い、不満を聞き出すよう心がけています。また、ご入居者様は、そのご家族他の方に自由に電話を掛けることが出来る環境にあり、自由に外部とのコミュニケーションを取られています。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご入居者様の健康状態に異変があった際や受診を行なった際は、随時その家族他に連絡をしています。職員の異動や金銭管理についても、面会に来られた際に説明させて頂いています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		?
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご入居者様とのコミュニケーションを図り、要望を聞いた上でご家族に相談するように務め、ご入居者様の気持ちや、要望を最大限活かせるよう、作成しています。また、ケアプランを介護記録のファイルにはせており職員はいつもの確認ができるようにしています。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた介護計画の見直しはもちろんのことですが、体調の変化等それまでの計画では対応が出来ない場合に、ご入居者様やその家族他と話し合い新たな計画を作成しています。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子をケアプランに沿って個別に介護記録用紙に記録しており、記録を基にケアプランの見直しを行なっている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしている。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしています。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方の協力を積極的に呼びかけ毎月何組かのボランティアの方にお越しいただいています。内容としては、お話し会・手遊び・中学生による琴や絵画・お菓子作り等があります。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	専門医師による講演会を毎月行い、地域の方を招待しており、毎回多数の方に参加いただいています。一般の方の見学や研修等も積極的に受け入れに努めています。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご入居者様やそのご家族のご意向を伺い、他のサービス利用に向けた他サービスへの見学への付き添いや連絡等をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関する勉強会を開いており、一人ひとりの自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っています。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促しています。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食器洗いや、洗濯それぞれ出来ることをやっていただくよう支援している。自室は毎日利用者本人に清掃してもらい、できないご入居者様は職員が行う。居室内のタンス等には、本人の希望があれば、「タオル」などのシールを貼り、分かりやすくしています。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>無理強いせず、一人ひとりの生活パターンを大切に、希望に添って支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>2ヶ月に1回程度訪問の理容を支援している。夏祭りのときには希望者は浴衣を着、化粧をしたり、外出の際のおしゃれ等支援しています。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事が楽しみなご入所者様も多く、食事の準備を手伝ってくれる方が多い。食事時の雰囲気も良く、好き嫌いにも対応し、体調が優れないとき等希望があればお粥など、臨機応変に対応している。また、ご入居者様、職員と一緒に準備、食事、片付けをして、さらに、コミュニケーションを円滑に図り、楽しみを増やすよう支援しています。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>現在、喫煙する利用者はいないため、他者への迷惑や、防火等考え、敷地内は禁煙になっている。飲酒は希望があれば健康に支障をきたさない程度に楽しめるよう支援しています。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>自尊心を傷つけることなく、定期的にさりげない声かけやトイレ誘導をしています。現在、常時オムツをしている利用者はいない。全てのトイレにウォシュレット・手すりがついており、車椅子用トイレには背もたれ、足置きを備えています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の入り口にカギはなく、門もなく開けられている。玄関周りは花で飾られており、季節感があふれている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ご入居者様とのカレンダー作りで季節感をだしている。ホールの中には台所があり、まな板の音や料理の匂いで五感を刺激する。そうすることでコミュニケーションの活性化にもつながる。また馴染みの食器を使用しているご入居者様もあり、楽しく食事をする工夫もしている。花を飾り季節感を出すよう努めています。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TV、テーブル、ソファがホールにあり、利用者様がTVを観たり、本を読んだり、談笑したりと気のあったご入居者同士で思い思いに過ごしている。また、玄関ホールやホール内の小上がりにソファやコタツが設置されており、独りになれる落ち着いた居場所づくりを工夫しています。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者様が居心地よく過ごして頂くために、本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのもを使用している。例としては、タンス、化粧台や仏壇などがあります。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、窓の開け閉めをし、空気を入れ換える。居室に冷暖房、換気扇があり利用者様の要望に応じて調整している。また、各ホールに温度計が設置されており、外気との気温の差を観ながら室内の温度を調節している。暖房を使用する際には加湿器を設置し乾燥を防ぐよう努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	シンク、調理台などはご入居者様の高さに合わせ、使用しやすいよう配慮している。また、洗面台も、車椅子を使用している御入居者様の高さに合わせ工夫しており、自立した生活に繋げている。ホール、トイレ、浴槽内に手すりを設置しており、安全面にも気を付けています。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの扉にトイレと記載した紙が貼ってあり、混乱や失敗を防いでいます。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に畑、花壇、ベンチがあるため、外周りの散歩時などは楽しみながら活動している。また、かえで内にエレベーターが設置されているため、車椅子のご入居者様でも要望に応じて気軽に外出する事ができます。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない